



しがレクからのおたより

Smile
for all

令和4年度 第3号 2023年1月発行

滋賀県レクリエーション協会 事務局 発行

送信・返信先 〒525-0052 滋賀県草津市西矢倉 3-17-13 黒川かず江方

年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご機嫌よく新年を迎えられたこととお祝い申し上げます。

本年は兎年であり、まさに跳躍の年でもあります。コロナもインフルエンザも飛び越えレクリエーション運動を推進していきたいものです。

皆さまの周りの人がまず健康な笑顔で日々の生活を満喫されることが大切です。その笑顔こそが県民の笑顔づくりにつながり県全体の心の健康づくりへと発展していくことだと信じます。新型コロナウイルスの蔓延で外出を控えるようになって、人とのコミュニケーションの場が失われ改めて日々の生活の中にレクを取り入れることがいかに重要であり、いかに一人一人の生きる力に関わっていくかということを感じている今日この頃です。日々、一人の生活が一番という人も、人とつながり会話し笑顔ある生活があってこそだと思います。どうぞ、この一年が幸せなものとなりますよう祈念しています。

滋賀県レクリエーション協会
会長 前山 亨

フォローアップセミナーのお知らせ

会員のみなさまを対象とする研修会を開催します。今回は、折り紙を学びます。普段はあまり作らないような華やかな作品に挑戦します。「さざなみ」「四つ袖」「扇上の鶴」といった珍しい型や、子どもや高齢者も楽しんで折ってもらえる簡単なものまで、幅広い内容となっています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

日時：令和5年2月25日（土） 13：30～16：30

内容：華やかな折り紙

場所：堅田市民センター

材料費：300円



第69回 滋賀県レクリエーション大会

令和4年12月25日(日) 9:15~12:00 会場：竜王町 希望が丘公園 青年の城

今回は、フライングディスクのディスクゴルフ大会として開催されました。参加者は44名であり、10代から80代まで幅広い層が参加し、クリスマスということもあり活気よくプレイできました。まず初めに開会式を行い、副会長の二宮氏からの挨拶に続き、レクリエーション活動の功労者として滋賀県フライングディスク協会会長の早川浩一氏が表彰され、賞状と記念品が授与されました。

その後、ディスクゴルフの楽しみ方とコース説明があり、参加者全員で記念写真を撮りました。続いて、5名前後のグループに分かれ、それぞれ決められたコースを二周して、合計のスコアを競いました。

大会は冬の時期ということもあり、最初のうちは寒さに凍えながら行っていたものの、ゲームを進めていくうちに体も雰囲気も暖かくなり、良い大会となりました。中には一発でゴールを決めるホールインワンをされた方もいたり、池にいれるハプニングもあり、とても充実した一日になりました。



開会式の様子



功労者 早川浩一氏



ゴールめがけてパットスロー



池から脱出スロー



SNS 活動

今年度は第 1 号でも紹介した通り、滋賀県レクリエーション協会広報部の試みとして新たな発信にチャレンジしています。情報の発信は「Twitter」「Instagram」「Facebook」の SNS を利用して行われています。発信内容としては、レクリエーション大会に関連することや滋賀県レクリエーション協会が行っている「レクリエーション・インストラクター養成講座」の活動内容報告、レクリエーション活動の紹介、また学生たちが企画・運営したイベントなどがあります。

皆さんもスマートフォンからアプリをダウンロードしてぜひフォローしてください。

また、リクエストなどあれば、気軽にお問い合わせください。

【フォローの仕方 🍷】

スマホにそれぞれのアプリをダウンロードします。次にカメラで QR コードを読み込んでもらうと、それぞれのアカウントが出てきます。そこで「フォローする」を押すと、「フォロー中」になります。これでフォローは完了です！

Instagram の場合



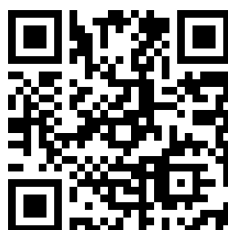
Twitter ID
Shiga_rec



Instagram ID
shiga_rec



Facebook ID
滋賀レク



会員の動向

私とレクリエーションとの出会い

会員限定

た野外活動としての「ミカン狩り」、琵琶湖一周を目指した「ハイキング」、さらにインクルーシブな社会を目指して公立高校の和太鼓クラブとの交流など多種多様な活動を行っています。これまで当協会の活動には余り参加できていませんが、宜しくお願いします。

レクリエーションの小ネタ

2025年デフリンピック東京開催に向けて

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が1年延期となり、2021年に東京オリ・パラ、今年は北京オリ・パラならびに、つい先日まで熱戦が繰り広げられていたサッカーワールドカップカタール大会と、「メガスポーツイベント」が毎年開催されています。さらに来年はフランスでのラグビーワールドカップ、再来年にはフランスオリ・パラの開催が控えており、スポーツに関わる話題に事欠かない日々が続いていきます。

では、3年後の2025年に東京で行われる国際的なスポーツ大会をみなさんはご存じでしょうか？もしかすると即答できる方は少ないかもしれません。それは「デフリンピック」です。デフリンピックは聴覚障害のある人を対象とした国際スポーツ大会です。多くのみなさんが障害者スポーツというと「パラリンピック」をイメージされるかもしれませんが、パラリンピックは、肢体不自由・視覚障害・知的障害の3障害が参加対象となっており、聴覚障害者は含まれていません。第1回の夏季デフリンピックは1924年にフランス・パリで開催され、パラリンピックよりも長い歴史がありますが（第1回夏季パラリンピックは1960年開催）、国内での認知度は決して高くありません。ある調査によれば、それぞれの認知度は「パラリンピック」98.2%、「デフリンピック」11.2%となっており、その差は歴然としていると同時に（パラリンピック研究会、2014）、パラリンピアンと比べてデフリンピアンに対する支援は十分ではなく、競技環境は厳しいものであるとされています。このような状況の中でも、今年、ブラジルで開催された夏季デフリンピックでは計30枚（金：12枚/銀：8枚/銅：10枚）と過去最多のメダルを獲得しました。

オリンピック・パラリンピックのみならず、聴覚障害者のオリンピックともいえる「デフリンピック」もぜひ注目してもらいたいと思います。

（理事：同志社大学 河西 正博）